

だれでも幸せになれる教えです!!

ひかり

2024年

9月

229号



◇世界が輝いて見えるために
◇大やけどから奇跡の生還



ホームページ

宗教法人 真生会

令和六年信仰目標

利他行を実践しよう!!

『幸せへの近道、一日二つ人のため!』

真生会の教えとは!

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

◇慈悲の世界「真生楽園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声がけの実践

◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きつとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）

令和6年度 真生大観音祭り

10月27日開催予定!!

☆ご参拝をお待ちしています☆



◇遠方からでも
リモート参拝できます！
YouTube でライブ配信予定

大観音祭り特別祈願

- ◇大観音胎内仏供養
- ◇子孫繁栄総供養・・・申込受付中！
※お早めにお申し込み下さい。

☆毎年恒例、孟蘭盆会施餓鬼供養

総本山(古)町内、宮部家・神谷家御一統

総本山真生寺開山以来四十二年間、毎年八月十三日に地元彦坂ご町内四十五軒の皆様が参拝され、各家先祖の施餓鬼供養が厳かに執り行われ、読経・焼香の後、会長先生よりご法話を聴聞されました。



☆企業安全祈願お祓い

(株)アクトクリエィティブトラスト

八月二十三日、株式会社アクトクリエィティブトラストの田中基之社長はじめ社員総勢十八名が、社運隆昌と工事の無事安全を願い企業安全祈願に参拝し、お祓いと心構えのご法話を拝聴されました。





開祖さまのみ教え

開祖 田中偉仁

たなか ひでひと

二十年先の日本、二十年先のわが家を考える時、胸を張って現在より日本は発展し、わが家は栄えますと断言出来る人が何人あるでしょうか。「未来と知らんと欲せば現在を知れ」現在の考え方が未来に繋がると知る時、どのような考えをもって日々働き、暮らしているかが問題です。社会は家庭の延長です。社会が悪い、国が悪いと論じても、本当はわが家の親子兄弟の生きた人間生活が良くならなければ社会も国も世界も良くなりません。相手を変えようと思うほど、わが意の如くはならず、安心のできる日は来ません。相手なんか変わるものではない。自分の見方を変えるのが正しい生き方であります。

(1983年、真実に生きる40号より)

ぶし眞教法話

会長 田中庸仁
たなか つねひと



◇世界が輝いて見えるために

「奇^きなるかな奇なるかな、一切衆生ことごとく皆如来の智慧、徳相を具有す。ただ妄想・執着あるを以ての故に証得せず」と悟りを開かれたお釈迦さまの目に映った世界の感動のお言葉です。

「不思議なことだ素晴らしいことだ。生きとし生けるものは皆、仏と同じ生きる智慧と徳分を持つて輝いているのに、教えない人間は自分の妄想と執着に取り付かれ、人としての正しい生き方が分からなくなってしまうのだ」

では、妄想とは何でしょう。

相手を自分の思うようにしたいという視野の狭い「自分中心の勝手な思い込

み」です。

執着しゅうちやくとは「柔軟性のない凝り固こまった考かたえ方」です。

つまり、自分が経験したり、やってきた事だけ、知っている事だけ、自分だけが正しいというスケールの小さいものの見方です。

しかし、人生と世界は「目の付け所で一変する」ということです。相手のどこを見るか、どう見るか。

また、自分の思い通りにしたいという欲の色眼鏡をはずし、自分だけが正しいというスケールの小さなもの見方を捨てれば、すべては輝いて見えるということなのです。その時、今まで曇っていた人生が明るくなり、希望が湧いてくるのです。

◇大やけどから奇跡の生還

筆者が修行入信間もない二十三歳の時の体験です。信仰の功德は年令や時代や場所に関係なく、法華経行者の



秋桜

願いと実践には必ず結果現象の功德が現れるのです。

今から四十四年前、昭和五十五年六月六日、開祖さまの代理で岡山の支部法座に出かけました。支部長さんの声掛けで初めて法座に来られた三十代半ばの若い父親の深刻なご相談でした。状況を時系列で記述します。

・五月七日夕方、三歳の次女が誤って沸騰した味噌汁を鍋ごと頭からかぶり、全身大やけどの状態で救急病院に入院。

四十二度の高熱が二日間続き、痙攣を繰り返すが意識反応がない。

・五月十日、このままでは助からないかもしれない。設備の整った大学病院に転院させたいと思い、救急病院の医師にお願いすると「今動かしたら命が危ない。救急車の中で死んでしまう」と言われたが、医師と喧嘩してでも娘を転院させたいと決意する。

・五月十一日、国立の大学病院に転院。

点滴の治療が始まるが、血圧が三百から下がらない状況が五日間続く。以後、一進一退の危険状態が続く。

・六月六日、藁をもつかむ思いで夜法座を訪ねて来られ、必死の相談をされる。

・翌六月七日（大やけどの事故の一ヶ月後）

父親と大学病院を訪れ、許可を受け集中治療室に入り、そつと患者の体に手をかざし一心行で拝むが、全身包帯で包まれた幼女の姿は痛々しく、どの患者よりも重体に見えた。バイ菌が体内に広がり始めているが、やけどの治療は手術以外に方法はなく危険状態が続いている。両親を励まし懺悔さんげの話をしたが、拝む以外に打つ手はない。

お題目を唱え、衆生見劫盡しゅじょうけんこうじん 大火所焼時だいかしょしょうじ 我此土安穩がしどあんのん
天人常充滿てんにんじょうじゅうまんの経文を唱えて拝み続けることをご指導。
昼夜を問わず経文を唱えて夫婦交替で拝み続ける。

・六月九日、依然熱が四十度から下がらない最悪の状況下だが手術を決行。「最善を尽くすが一生懸命拜んでいて下さい」と医師も運を天に任す思い。

・六月十六日、意識は依然戻らない。再び発熱。注射を



菊

打つと血が止まらない。血小板が異常に低下し、通常二十万が五万しかない。一万を割ったら命が危ない。夫婦交替で直接子供を拝む。片方はじつとしておられず、メモ用紙や手のひらが真っ赤になるほど写経の実践をする。

・六月二十一日、血小板が一万を割る。明日までに熱が下がらなければ諦めるしかないと宣告される。ついに機械で呼吸。真夜中十一時半、面会を許される。もうダメなのか！点滴の針は十五本刺さっている。必死で拝み続けるが、一時間後待合室に戻るよう促される。

翌朝六時、奇跡的に熱が下がり、一命を取り留めるが予断は許されない。

・六月末、変化あり。親を見る目と医師を見る目が違ってきた。

医師曰く「たとえ命を取り留めても熱湯のショックで脳が委縮いしゆくしダメージが大きいので、植物状態で意思の疎通そつうはできない」

希望を捨てず毎日拝み続け、名前を呼び続ける。泣き声が変わってきた。

もし脳が戻れば一〇〇%奇跡。

・七月六日、泣き声の変化は明白になってきた。助かるかもしれない。

集中治療室から一般病棟に移る。医師曰く「ここまで命があることが不思議。

転室して助からないのなら、このまま集中治療室にいても助からない。一か八かの賭けである」

・七月八日、事故発生後、初めてものを言う。

親の呼びかけに「父さん、母さん」と返事をする。

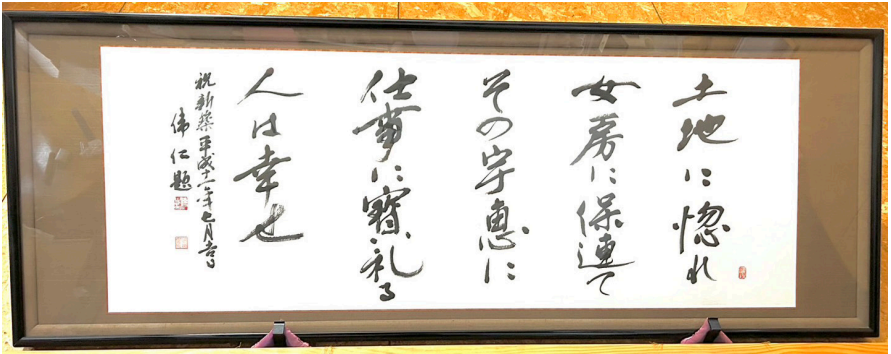
医師は信じない。しゃべれる状態ではない。

・七月十一日、看護婦の呼びかけに返事をした。医師も驚き、脳の検査をするが萎縮したまま。奇跡が起こった。それ以後、飛躍的に病状が回復し、リハビリも順調に進み、入院半年後の十一月に無事退院し、岐阜の総本山真生寺まで親子三人でお礼参りに見えました。よみがえ蘇る教え妙法と教えられますが、私も若く修行未熟でしたが、教えを信じる情熱でお伝えし、初めて教えを聞いたご夫婦も命がけでお題目と経文を唱え、写経を続けられた不自惜ふじしやくしんみょう身命の功德であり、教えを素直に信じる心と実行こそが功德の現れる原動力と言えます。



秋風や
只それだけの
旅心
画

先達の名言名句



(開祖さま書)

◇三惚れ

(開祖さま第三の師、庭野日敬師の言葉)

土地に惚れ 女房に保連て

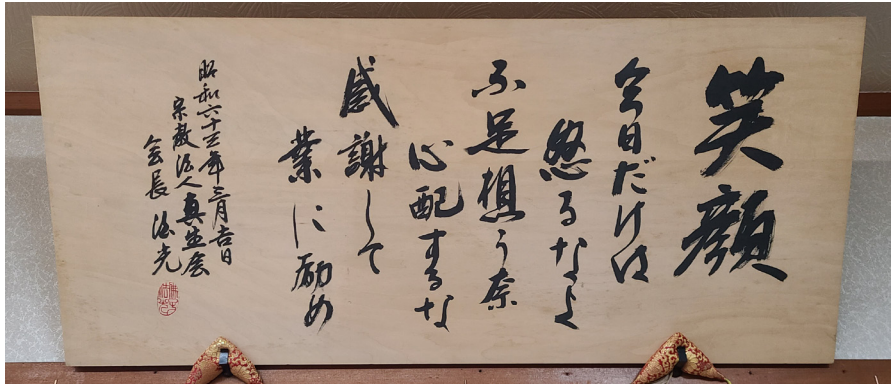
その宇恵に 仕事に宝礼る 人は幸せ

故郷や住んでいる場所、育った家庭のことを好きになれる人は幸せです。

「親子は一世、夫婦は二世、主従は三世」仏教では夫婦の縁は現世だけでなく死後の来世までも続くと言います。辛い時も病める時も、嬉しい時も悲しい時も、喧嘩する時があっても離婚せず、最後まで連れ添うことを保てる人は幸せです。

天(宇宙)から頂いた恵みと違って、仕事を宝物にお礼を言うような気持で感謝して働ける人は幸せです。好きこそもの上手なれ、土地や夫婦や仕事を好きになり惚れ込んでこそその幸せです。

あなたは何惚れですか。



(柴垣法隆聖祖の言葉)

◇ 笑顔

笑顔は幸せのシンボルです。どんな時にも笑顔を絶やさないうようになりたいですね。

怒りは地獄の業、病気・貧乏・災難のもとです。愚痴不足は畜生と同じ、感謝の行いこそが笑顔を生み出します。

開祖さまの笑顔には多くの人が救われました。その笑顔は多くの試練を乗り越えてにじみ出る笑顔でした。

真生会の教えは忍を保つ修行の「怒らん教」です。永遠に怒らない修行は難しいけれど、
せめて今日一日だけは、

「怒らない。何事にも愚痴不足を思わないようにする。心配し過ぎず、すべての事に感謝して実行しましょう」

その実践が、いつでも、どこでも、誰にでも、どんなことにも笑顔でいられるようになるのです。

今月の運勢（10月）

（2024年10月8日～11月6日）

一白水星

運勢は強いが有るべき所に有るべき物があ
り、きちつと整ってい
ることが大切。最後ま
でやり通す人は運が強
く、途中でやめる人は
運が弱い。やり遂げて
も油断せず、次の目標
に向かって進むこと。

二黒土星

今行おうとしている決
断や改革は正しいが、
経験豊かな優れた人が
ついていることが必
要。負けたり失敗する
と取り返しのつかない
事態を招く賭けである
から行動は慎重に。

三碧木星

ことを為すには喜び楽

しむことが大切。優れ

たりリーダーを仰ぎ、何
をするにも皆の心を一
致団結させ地盤固めを
することが必要。そう
すれば何事も思い通り
に運ぶ。大きなことが
行える時。

四緑木星

機が熟しいよいよチャ
ンスの到来である。上
の者が施しをすれば下
の者が喜び従う。お互
いに助け合えばその勢
いを増し益となる。利
益の独り占めや強欲は
益の勢いを損なうので
注意すること。

五黄土星

運氣は最高調を迎えて
いる。活動範囲を広げ

人脈も広げるチャンス

である。流れに乗って
行けば発展できる。優
柔不断は運氣を下げ、
思わぬ事につまずきや
すいので要注意。

六白金星

力は充実しているが、
周囲から動向を見られ
ているので、大きなこ
とを為したり、大きな
変化をする時ではな
い。じっくり腰を落ち
着けて周囲の状況を見
極め、しつかりエネル
ギーを蓄える時。

七赤金星

決断と実行の時。一瞬
の鮮やかさで事を進め
ること。しかし、決行
に当たっては仲間を充

分納得させ団結させる

こと。独断専行の強引
な手法は思わぬ反発を
買うので要注意。

八白土星

収穫の時期を迎え、何
もしなくても物が集
まって来る。しかし氣
を緩めると思わぬ損を
する。納得づくで損を
受け入れ動じなければ
かえって吉となる。

九紫火星

問題にぶつかり、心な
らずもその場に居づら
くなり失意の旅に出た
くなるが、冷静にとど
まり明るさを失わなけ
ればいづれ変化する。
投げやりにならないけ
れば好機が来る。

「まごころ誌代」御礼

★皆様の『まごころ次第』献金のご協力によって継続発刊しています。
紙面をもつて感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

東島佑樹	堀田純子	佐藤光洋	田中花音	早野桂子
細谷早予子	奥田佳代	伊東 晃	亀井善広	足立和美
出田 梓	平口富子	安田初子	亀井由実子	足立恵衣子
今井純司	村上視佑記	増田恵視子	熊田啓予	鈴木光隆
笹原正子	谷口祐晟	滝本光夫	河合健司	多田佳央
笹原トミ子	谷口祐子	福元正子	河合愛実	飯田修五
滝山恵依子	樋口恵美子	松本真由美	河合詩遠	飯田昌子
永田雅子	樋口容子	亀井善二	河合里紗	松尾定洋
荒木啓依子	土川順寛	佐藤ひとみ	河合央真	野田幸嗣
三村千佳	土川恭代	小山征時	高橋身衣	加藤祐記子
宮島りえ	土川康二	四日市某	堀部恭利	山田佳延
坂本育身	土川廣美	藤本幹男	堀部高佑	加納啓至
小村友子	横山知津子	田中佑季子	堀部祐美衣	多田正幸
坪井祥子	某女	田中光隆	豊田直正	多田道子
小林佑実子	山本季美衣	田中理夏子	豊田真悠子	宮田雄貴
大下裕子	佐藤百々枝	田中宏明	早野起世	横井志奈子

《入会のご案内》

真生会は、個人の心の勉強と実践を目的とする個人会員制です。各家の宗旨宗派はご自由です。詳しくは総本山真生寺、各教会にお尋ね下さい。

☆会員会費 500円/月

発行所 宗教法人 真生会 総本山真生寺
〒501-1105 岐阜市彦坂178番地
TEL 058(235)7304

発行人 会長 田中庸仁

振込先 三菱UFJ銀行 岐阜支店
普通口座 3715509

名義 宗教法人真生会 代表役員 田中庸仁

しあわせ眼鏡

人生とは
泣いたり笑ったり、
もがいたりしながら
前に進むこと。
人生はゼロと百だけ
ではない。
選択肢は無限。
選ぶのは自分。

お気軽にご連絡ご相談下さい

- | | | |
|----------|------------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒 501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地
T E L 058 - 235 - 7304 |
| 【岐阜教会】 | 〒 500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19
T E L 058 - 262 - 9615 |
| 【大阪教会】 | 〒 532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10
T E L 06 - 6308 - 5637 |
| 【名古屋教会】 | 〒 454-0808 | 名古屋市中区九重町 3 - 10
T E L 052 - 351 - 3904 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送りします